

永谷園グループ  
環境・社会報告書

2022



# Top Message

トップメッセージ

## 創意と工夫で食を通じて幸せで豊かな社会づくりに貢献します

永谷園グループの企業理念は「味ひとすじ」です。

「味ひとすじ」は永谷園創業者である永谷嘉男が『お茶づけに一生を捧げる』という想いを言語化したものです。「味ひとすじ」とは、「今までにない」「お客さまになるほどおいしいと感じてもらえる」「他社にマネができない」商品を出し続けるという決意です。そしてこの決意の目指すところは、お客さまに思いを馳せ、思いやりを持って「食を通じて幸せで豊かな社会づくりに貢献していく」ためであることに他なりません。

近年、世界は気候変動によるさまざまな問題や新型コロナウイルス蔓延などによる日常生活の変化を余儀なくされています。また持続可能な社会の実現のため、気候変動対策を含めた SDGs への対応が社会全体で求められております。永谷園グループも事業活動を継続する立場としてこれらの問題への対応を企業の社会的責任ととらえて取り組んでおります。

## 食を通じた活動でSDGsを推進してまいります

永谷園グループができること。それはやはり「食を通じた活動」に他なりません。「食を通じて」というのは商品開発・生産・販売から、お客さまの手に届き、召し上がっていただくまでのすべての工程が、我々が提供する「食」であり、「食を通じた活動」です。

これまで永谷園ではすべてのお客さまにおいしく召し上がっていただけるよう食物アレルギーに配慮した商品や、防災食の開発・販売、安心安全を確固たるものにする「NAFSAS」という独自の品質保証体制、工場での廃棄物削減や再生可能エネルギーの使用、フードバンクへの商品提供などさまざまな形で CSR に取り組んできました。

これからも永谷園グループは持続可能な「幸せで豊かな社会」を実現するために、「食を通じた活動」で気候変動による環境問題を含めた社会の課題に対し、商品設計・製造・販売などのあらゆる場面で今できることをひとつひとつ実践してまいります。

2015年に提唱された SDGs。それは将来の社会が「幸せで豊かな社会」であり続けるために今からできることを実行することであると信じています。我々は我々ができる「食を通じた活動」によってお客さま一人ひとりの暮らしに貢献してまいります。



株式会社永谷園ホールディングス  
代表取締役社長

永谷 泰次郎



表紙：パラリンアート作品  
『自分の歩幅』(作家／青田 さやか)

「パラリンアート」とは障がい者の社会参加と経済的自立を、彼らの芸術表現を通じて一般社団法人障がい者自立推進機構が推進する活動です。



## CONTENTS

- 1 トップメッセージ
- 2 目次／編集方針
- 3 企業理念
- 4 サステナビリティ
- 5 特集

### 会社の基盤

- 7 CSR
- 8 バリューチェーンの流れとSDGs
- 9 会社概要
- 11 コーポレート・ガバナンス
- 12 食品安全／品質保証

### 社会の中で

- 14 お客さまとの関係
- 16 従業員との関係
- 17 社会との関係

### 地球環境のために

- 19 環境基本方針／推進体制
- 20 環境マネジメントシステム／  
マテリアルフロー
- 21 2021年度結果
- 22 気候変動への取り組み
- 23 廃棄物削減の取り組み／編集後記

## 編集方針

本報告書は、永谷園グループを支えてくださる皆様(お客さま、お取引先様、株主様、地域住民の皆様などの方々およびグループ従業員)とのかかわりを、より深くすることを目的として作成しました。

本報告書では、永谷園グループをより一層ご理解いただくために、永谷園グループが2021年度に取り組んだ環境保全活動内容や企業活動内容を広くご紹介しています。

なお、本報告書の作成に際しては、環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考にしました。

### 報告対象期間

2021年4月～2022年3月

※一部、当該期間外における取り組みが含まれています。

※本報告書に登場する従業員の肩書き、部署名は取材時のものです。

### 発行年月

2022年12月

### 次回発行予定

2023年11月

### 報告対象組織

本報告書は、永谷園グループを報告対象としています。なお、本文中に記載している企業名は法人格を省略しています。また、永谷園ホールディングスと永谷園の共通の取り組みは、まとめて「永谷園」として報告しています。

### 環境パフォーマンス対象組織

(株)永谷園ホールディングス、(株)永谷園、(株)永谷園フーズ(茨城工場、岡山工場、サンフレックス工場、オクトス工場、岡山御津工場、酒田工場、松本工場)、(株)サニーフーズ、藤原製麺(株)、(株)麦の穂

## 企業理念

永谷園グループは、「味ひとすじ」の企業理念のもと、常に、安全かつ高品質で、おいしい商品をお客さまに提供することを経営の基本方針としています。この基本方針に沿った事業展開により、お客さまから愛され、信頼される永谷園ブランドの形成に努めてきました。2002年7月には、お客さまからより一層の信頼と評価をいただけることを目指し、永谷園グループの企業倫理に関する基本方針として「企業行動指針」を制定し、ホームページに掲載しています。

永谷園の企業理念は、創業の精神である「味ひとすじ」です

### 【企業理念】

# 味ひとすじ



筆／永谷嘉男(永谷園 創業者)

「味ひとすじ」は永谷園の企業理念です。

企業理念とはその会社の基本的な考え方・信念・価値観のことです。

お客さまに思いを馳せ、私達にできることを考え抜く。

その志なくして「味ひとすじ」はあり得ません。

「味ひとすじ」とは、 1. 今までにない

2. お客さまに「なるほどおいしい」と感じてもらえる

3. 他社にマネが出来ない

そういう商品を出し続けるという「決意」なのです。



# 持続可能な社会の 実現に貢献します

永谷園グループは、2022年12月に持続可能な社会の実現に向けた取り組みをグループ全体で強化することを目的として「永谷園グループサステナビリティ方針」の策定、サステナビリティ推進体制を構築しました。今後はサステナビリティ委員会を中心に、社会や環境問題をはじめとするサステナビリティを巡る課題を整理し、マテリアリティ(重要課題)の特定や、TCFDに基づく情報開示を順次行ってまいります。

## サステナビリティ方針

「味ひとすじ」の想いを常に抱き、  
オリジナリティの精神  
おいしさを提供し続ける決意  
お客さまに寄り添い、思いやる気持ちを持ち、  
さまざまな社会の課題に対して、  
食を通じた活動を通して取り組みます。  
そして持続可能な「幸せで豊かな社会」づくり  
に貢献して参ります。

## 持続可能な調達方針

永谷園グループは、法令遵守はもとより公正性・透明性を常に意識しお取引先さまと協働で、人権・労働・環境などの社会的責任にも配慮した調達活動の取り組みを進めていきます。

### 1. 法令、社会規範の遵守

法令、社会規範を遵守しお取引先さまと公正・公平・透明な関係を築き信頼される調達活動に努めます。

### 2. 地球環境への配慮

「永谷園グループ 環境基本方針」に準拠し、地球環境を配慮した調達活動を実施します。

### 3. 公平・公正な取引

品質、安全性、価格、技術力、安定供給、のみならずCSRへの

取り組み等を総合的に評価し公正・透明なお取引先さまの選定を行います。

### 4. 人権・労働・安全衛生への配慮

国際的な人権に関する基準や考え方を尊重し、児童労働・強制労働を排除するとともに労働環境や安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

### 5. 情報セキュリティへの取り組み

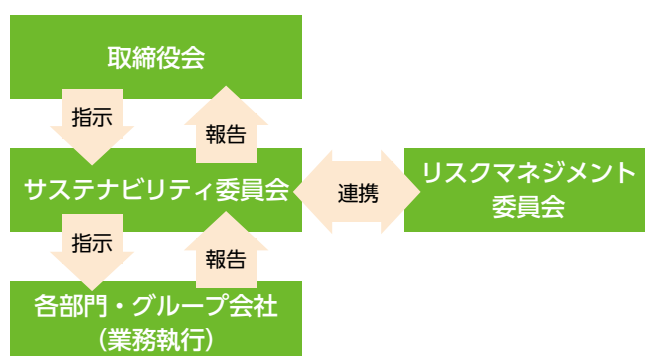
調達活動に関わる機密情報、個人情報、法令ならびに自社基準に従い、適正に管理します。

### 6. 社会・地域との共生

地域社会の一員として、お取引先さまとともに調達に関わるリスクの低減に努め、持続可能な社会の実現に貢献します。

## サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、永谷園ホールディングス社長を委員長とし、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定および取り組みを推進します。また、リスクマネジメント委員会とも連携して、環境変化に対応し、経営基盤の強化を進めていきます。



特集

# サステナビリティへの取り組み

サステナブルな未来への実現に向けて、永谷園の事業活動を通じた社会課題解決の取り組みをご紹介します。

## 環境に配慮した包装資材の採用

気候変動などの環境問題に対して、包装資材の分野においても地球環境を守る素材の採用が求められています。永谷園グループでは、商品の包材に環境配慮型素材を導入することで環境負荷を低減し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



## プラスチック使用量の削減

2022年9月、「フリーズドライ粉末タイプの即席みそ汁」を、これまでのプラスチック製（袋形態）から紙製（箱形態）に変更しました。これにより年間12トンのプラスチック使用量を削減できます。

「カップ入り生みそタイプのみそ汁」のフタをプラスチック製から紙製に変更しました。年間12トンのプラスチック使用量を削減できます。



紙製の箱に変更  
年間12トンの  
プラスチック  
使用量を削減



紙製のフタに変更  
年間12トンの  
プラスチック  
使用量を削減

## バイオマス原料の使用

2017年より、徳用10食入りみそ汁の外装袋にバイオマスプラスチックを使用した包材を使用しています。バイオマスプラスチックは、一部に植物由来の原料を使用することで枯渇性資源である石油の使用量を削減し、従来の石化由来のプラスチックよりCO<sub>2</sub>排出量を抑制できる環境にやさしい包材です。

2021年4月より、惣菜の素やふりかけなどの主要商品のパッケージに、植物由来の資源を原料の一部に使用したバイオマスインキを使用しています。



バイオマスインキを使用した商品の一例

# 食物アレルギーの取り組み



永谷園では、食物アレルギーをお持ちの方でも、安心しておいしく召し上がっていただける食品を提供したいという思いから、アレルギー配慮商品を発売しています。中でも2003年に誕生した「A-Label」シリーズは、「卵・乳・小麦・そば・落花生・大豆」と、「香料・着色料」「化学調味料」を使わない永谷園独自のブランドです。アレルギーの有無にかかわらず、同じ食事が楽しめる豊かな社会の実現を目指します。



## 工場での取り組み

食物アレルギー配慮商品において特に気をつけなければならないのが、コンタミネーション\*です。アレルゲンとなる食物がほんの微量でも混入することがあってはならないので、原材料の調達から生産、さらにはライン洗浄に至るまで、その危険性を防止するための管理方法を確立して通常の商品よりも厳しい条件で食物アレルギー配慮商品の生産を行っています。



\*コンタミネーション 原材料としては使用していないにもかかわらず、ごく微量のアレルゲンが意図せずに商品に混入してしまうこと

## 情報発信

ホームページの商品情報では、食物アレルゲン28品目の使用有無を分かりやすい表示で掲載しています。



## 他社と協同の取り組み

食物アレルギー配慮商品を取り扱っている食品メーカー5社(オタフクソース(株)、ケンミン食品(株)、(株)永谷園、日本ハム(株)、ハウス食品(株)(五十音順)で、「食物アレルギーの有無にかかわらず、みんなで食事をおいしく楽しめる社会の実現」に貢献することを目的に5社での活動を「プロジェクトA」と名付けて、食物アレルギー配慮商品の普及・啓蒙活動を行っています。2021年5月に「プロジェクトA」は、食物アレルギーへの理解・関心を高めるため、小学校向けの副読本「知ろう！学ぼう！食物アレルギー～みんなでいっしょに楽しく食べよう～」を製作し、ご希望いただいた小学校に無料配布しています。同年秋には、副読本を活用したオンライン出前授業も開始しました。

永谷園は、2022年2月に千葉県的小学校でオンライン授業を実施しました。授業では、実際に食物アレルギー配慮

商品と通常商品を見比べ、特定原材料に関わる表示の見方を体験してもらいました。授業後には児童から「表示はアレルギーの人にとって大切なんだと知った」などの声が寄せられ、食物アレルギーへの関心の高まりがうかがえました。今後もプロジェクトAの一員として、さらなる食物アレルギーの情報発信と啓蒙活動に取り組んでまいります。



# ステークホルダーの視点に立って CSR活動に取り組みます

## 永谷園グループのCSR

永谷園グループでは、「企業が経済・社会・環境など幅広い分野における責任を果たすことにより、さまざまなステークホルダーとの信頼関係を構築し、企業自身の持続的な発展を目指す取り組み」を、CSRの定義としています。

CSRを推進するためには、日頃から大切にしている「正しく、正直に、そしてまじめに」という考え方をグループの一人ひとりが強く認識することが大切だと考えています。

また、近年世界的な潮流となっているSDGs\*は、社会が直面する持続可能性にかかわる課題を具体的に示しています。SDGsを社会ニーズととらえ、企業活動に反映させることで社会価値を創出し、企業成長を実現していきます。



### ※ SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。全世界が取り組むべき目標として、以下の17を掲げています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう



# 社会課題を解決し、 幸せで豊かな社会を構築するために

## 持続可能性時代の実現に向けて

永谷園グループでは、世界の共通課題である「持続可能な開発目標(SDGs)」で掲げられた目標について、対応すべき重要な課題と認識しています。永谷園商品を例にバリューチェーン「創る」「作る」「売る」「使う」という機能の各段階での取り組みがSDGsとどのように関連するかをまとめました。各段階でSDGsが描く2030年の将来に向けた社会課題の解決に貢献していきます。

### バリューチェーンの流れとSDGs

|        |                | テーマ             | 取り組み                                      | 関連するSDGs  |
|--------|----------------|-----------------|---|---|
| 創る     | 設計             | おいしさ・品質の追求      | 「味ひとすじ」理念の具現化                             |    |
|        |                | 多様なニーズに対応した商品開発 | 食物アレルギー配慮商品<br>健康ニーズにマッチした商品<br>災害備蓄用商品   |   |
|        |                | 食品ロス削減          | 賞味期限延長                                    |    |
|        |                | 環境負荷低減          | 包装のコンパクト化によるゴミの削減                         |   |
|        | 調達             | 環境に配慮した調達       | バイオマスプラスチック包装資材の導入<br>持続可能な資源利用に配慮した原料の活用 |    |
|        |                |                 |   |   |
| 作る     | 生産             | 省資源・省エネルギー      | 工程・設備の改善、代替エネルギーの導入                       |   |
|        |                | 労働安全の追求         | 作業環境の改善、ヘルスチェックの実施                        |   |
| 売る     | 物流             | 環境負荷軽減          | 物流網の整備・再編、モーダルシフトの推進                      |   |
|        | 営業             | 食品ロス削減          | 需要予測の精度向上による流通在庫減・欠品防止<br>賞味期限の年月表示（一部商品） |    |
|        |                | 顧客開拓            | 新しい売り方・販売ルートの開拓                           |   |
| 省エネルギー | エコカー・エコドライブの導入 |                 |   |   |
| 使う     | お客様            | お客様視点での商品開発・改善  | お客様の声を商品設計に反映                             |    |

# グループ一丸となって おいしさを提供し続けます

## 会社概要

永谷園グループは、永谷園ホールディングスを持株会社とする持株会社体制のもと、「国内食料品事業」「海外食料品事業」「中食その他事業」を展開しています。

|      |                         |       |                         |
|------|-------------------------|-------|-------------------------|
| 商号   | 株式会社永谷園ホールディングス         | 従業員数  | [連結] 2,554名(2022年3月末現在) |
| 会社設立 | 1953年4月                 | 本社所在地 | 〒105-8448               |
| 資本金  | 35億292万円                |       | 東京都港区西新橋2丁目36番1号        |
| 売上高  | [連結] 954億8百万円(2022年3月期) |       |                         |

連結子会社(2022年3月末現在)

### [国内食料品事業]

#### ■株式会社永谷園

お茶づけ、ふりかけ、即席みそ汁など幅広い加工食品を製造・販売。

#### ■株式会社永谷園フーズ

永谷園グループの国内生産拠点を集約し、「お茶づけ海苔」「おとなのふりかけ」「あさげ」「麻婆春雨」「すし太郎」など永谷園の主力商品を製造。永谷園商品で使用する海苔の加工を行っている。フリーズドライ、レトルトをはじめ幅広い生産設備を保有している。生産拠点は酒田工場(山形県)、サンフレックス工場(福島県)、茨城工場(茨城県)、松本工場(長野県)、オクトス工場(三重県)、岡山工場(岡山県)、岡山御津工場(岡山県)の7カ所。

#### ■株式会社サニーフーズ

主に企業向けの食品原料(エキスパウダー、顆粒品、健康食品原料)を製造・販売。工場は栃木県那須塩原市と千葉県船橋市の2カ所。

#### ■藤原製麺株式会社

ラーメン、そば、うどん、そうめんなど麺類全般(常温・チルド)を製造・販売。

### [海外食料品事業]

#### ■Chaucer Group

- ・Chaucer Foods UK Limited
  - ・Chaucer Foods Inc.
  - ・Chaucer Foods SAS
  - ・Chaucer Foods (Qingdao) Co. Limited 他
- フルーツなどのフリーズドライ食品、パン製品を製造・販売。

#### ■Main On Foods Group

- ・JSL Foods Inc.
- 春巻、餃子の皮などをはじめ、麺商品、粉商品の製造販売。

### [中食その他事業]

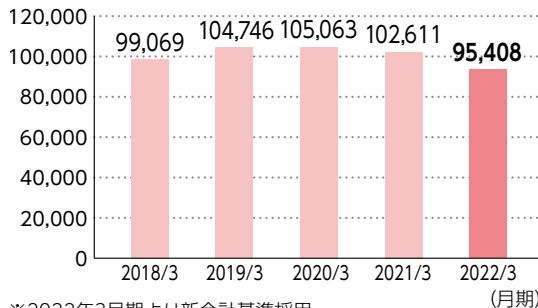
#### ■株式会社麦の穂ホールディングス

- ・株式会社麦の穂
- 「ビアードパパのつくりたて工房」「ココフラン」「シュクリムシュクリ」などのスイーツ事業、飲食店の経営。
- ・Muginoho Global Pte. Ltd.
  - ・Muginoho Taiwan Co., Ltd.
  - ・Muginoho International, Inc.

## 業績の概要(連結)

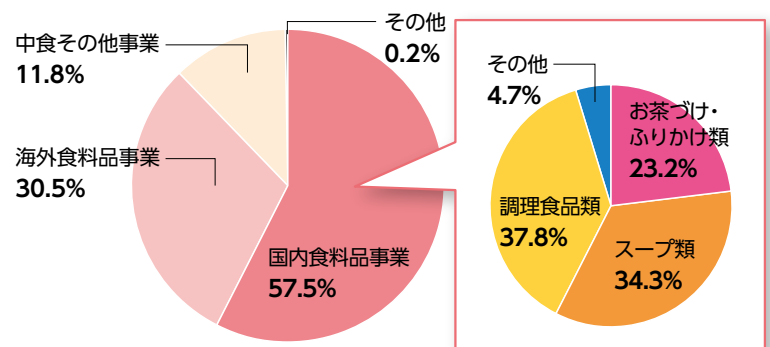
### 売上高の推移

(単位：百万円)



※2022年3月期より新会計基準採用

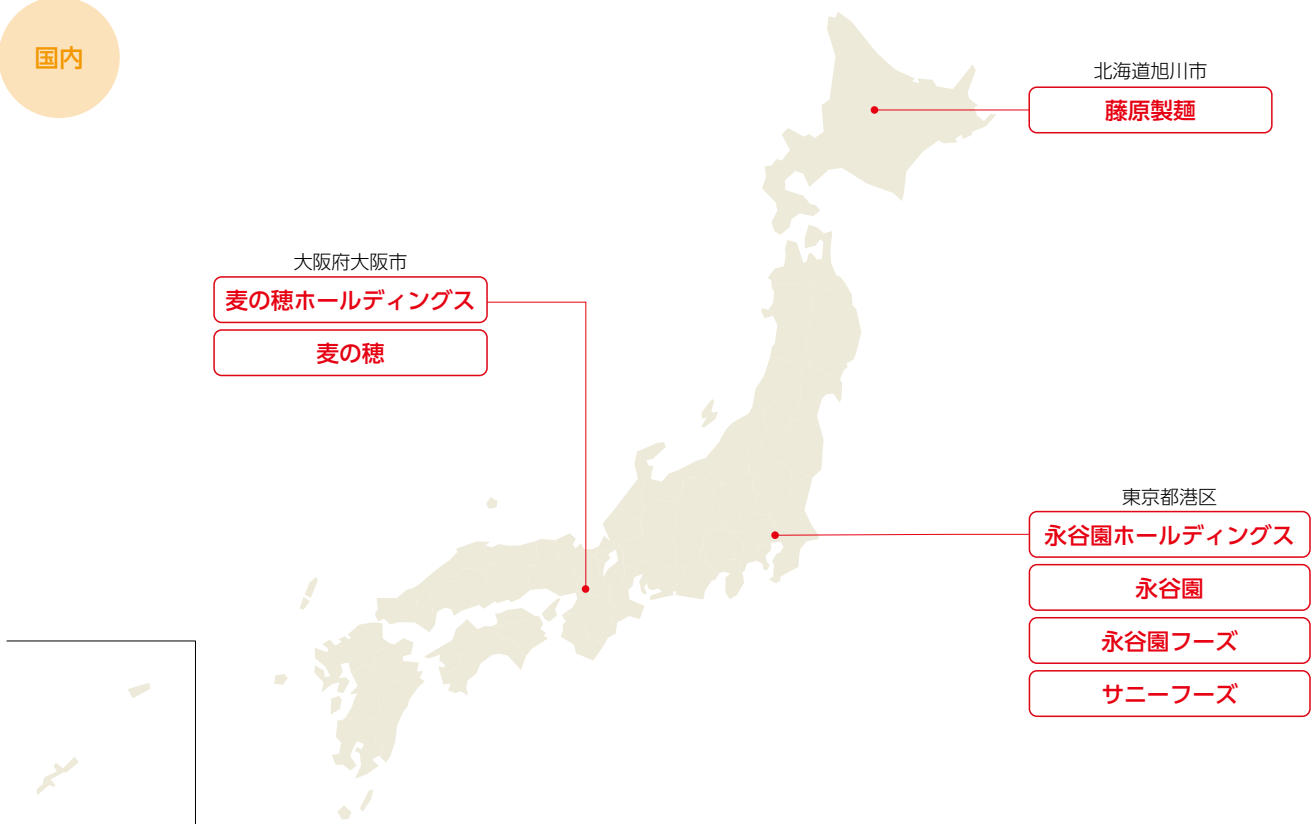
### 事業の種類別売上高構成比(2022年3月期)



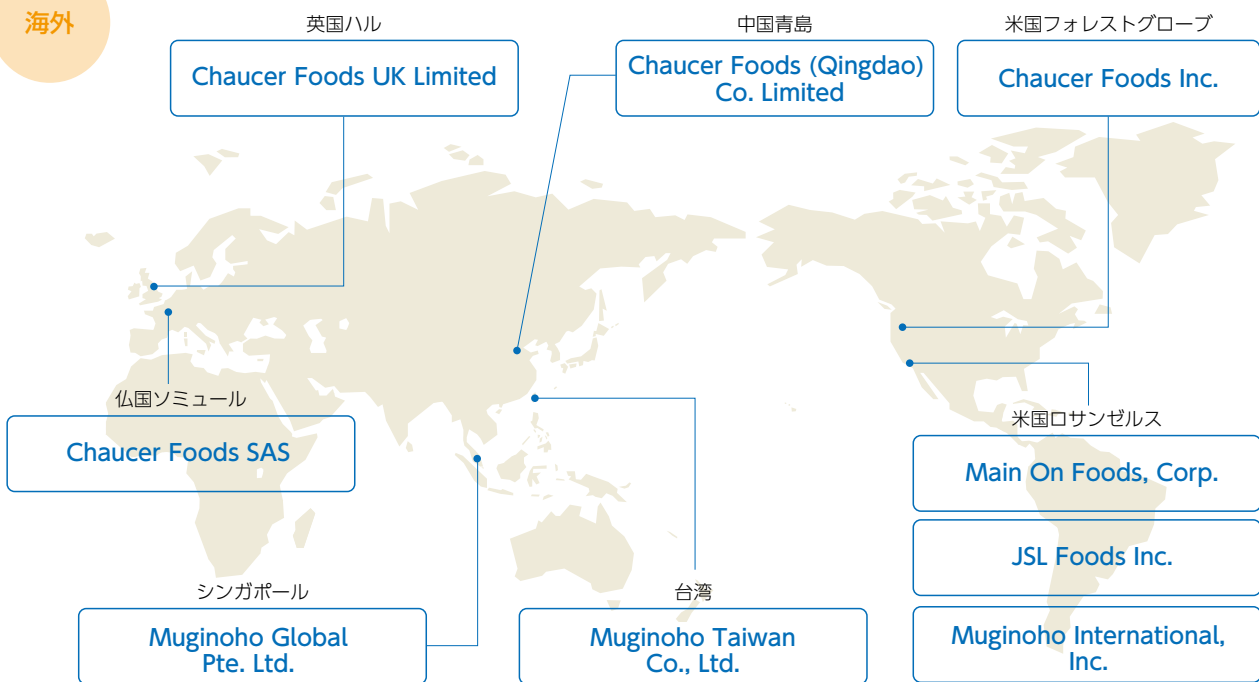
グループ会社 本社所在地

2022年3月末時点

国内



海外



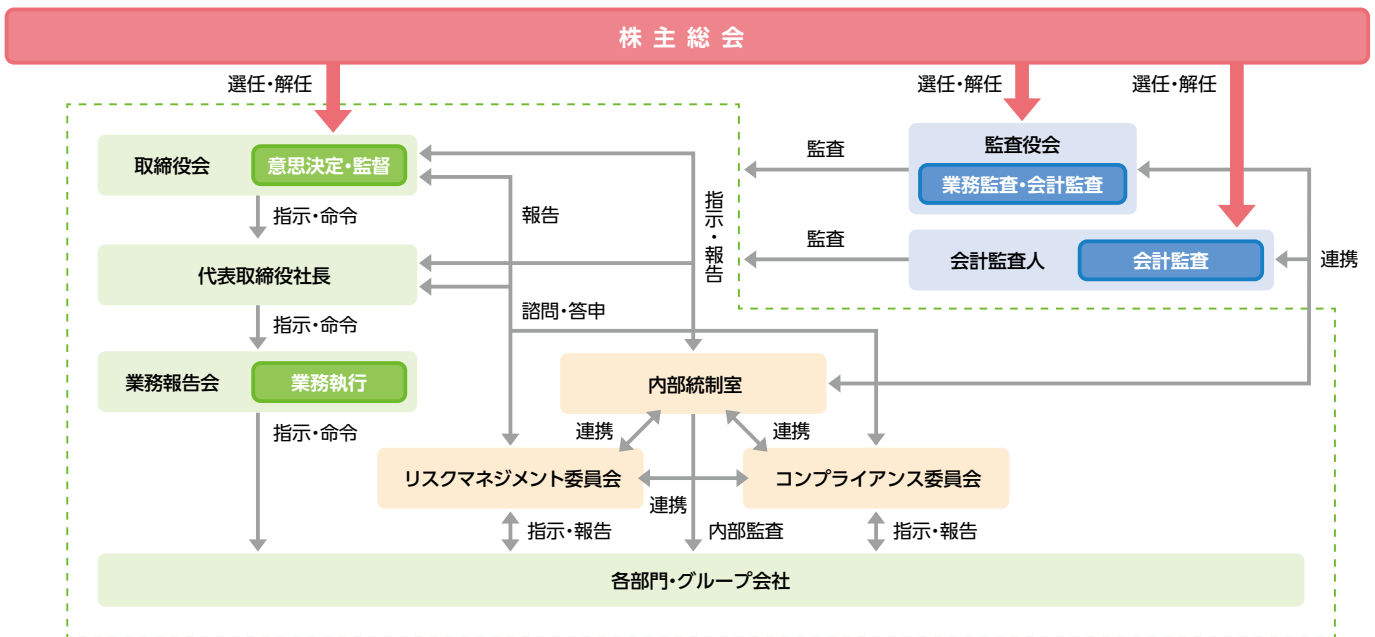
# 健全な企業として 発展するために

## コーポレート・ガバナンス

永谷園ホールディングスは、ステークホルダーの立場を尊重し、長期的な信頼関係を築き、企業の発展につなげていきたいと考えています。そのために、経営判断の迅速化と経営のチェック機能の充実を図ることを重要な経営課題と認識しています。また、永谷園ホールディングスでは、戦略策定・業務監督機能と業務執行機能との分離を明確にするために「執行役員制度」を導入しており、現行の経営体制(2022年6月30日現在)は取締役7名(社外取締役2名を含む)、執行役員9名(取締役兼務者を除く)、監査役4名(社外監査役2名を含む)となっています。

経営のチェック機能については、永谷園ホールディングスでは従来から監査役制度を採用しており、監査役は、取締役会その他重要な会議に出席する他、永谷園ホールディングスの業務や財産状況の調査はもとより、グループ会社の調査も積極的に実施しています。さらに会計監査人との連携強化を図り、業務執行の適法性、妥当性に関する監査体制の充実に努めています。

### コーポレート・ガバナンス体制



## コンプライアンス／リスクマネジメント

永谷園ホールディングスでは、社長直轄の組織としてコンプライアンス委員会とリスクマネジメント委員会を設置しています。

### コンプライアンス委員会

企業倫理および遵法精神に基づく企業行動の徹底を図るための重要方針を審議し、当社グループ内に普及・徹底させるための教育と各種施策を立案・実施するとともに、コンプライアンスに関する疑義・違反事項への対処・措置を審議し、コンプライアンス体制を継続的かつ、効果的に維持することを目的としています。

また、当社グループでは、コンプライアンスに関する相談や内部通報を受け付ける窓口を社内・社外に設けています。

### リスクマネジメント委員会

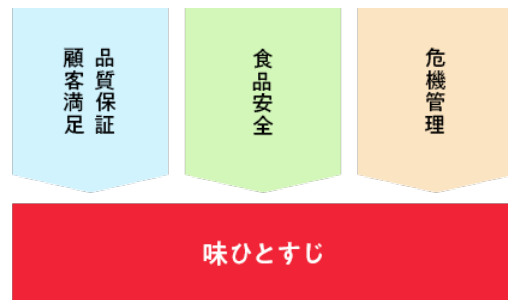
企業を取り巻くリスクが多様化する中で、リスク対策をより充実したものにするため、リスクを網羅的に洗い出し、リスク低減策の検討およびリスク発生を防止するための対策とそれらの充分性の検討を行い、当社におけるリスクへの総合的な対応を図ることを目的としています。

# 安全・安心な商品をお届けするために

## 食品安全への取り組み

永谷園グループでは「商品・サービスの安全性の確保」を企業行動指針の1番目に掲げて取り組んでいます。2009年に独自の品質保証システム「NAFSAS(ナフサス<sup>\*1</sup>)」を構築し、その後も常に世界情勢や食品安全に関する動向を注視し、さまざまな国際規格のノウハウを取り入れながら、永谷園グループの企業規模や風土に適合させた形へと整備、運用しています。

永谷園の企業理念は「味ひとすじ」です。お客さまに思いを馳せ、私達にできることを考え抜く。その志なくして「味ひとすじ」はありません。「味ひとすじ」とは①今までにない、②お客さまに「なるほどおいしい」と感じてもらえる、③他社にマネが出来ない、そういう商品を出し続けるという「決意」なのです。NAFSASでは、商品開発からお客さまに商品をお届けするまで「品質保証・顧客満足」「食品安全」「危機管理」の3つの柱と創業当時の「味ひとすじ」の企業理念を大切に品質にこだわって活動を行っています。永谷園では、今後もこの「味ひとすじ」を充実させ、「安全・安心」で「おいしい」商品開発への新たな取り組みを続けていきます。



## 「NAFSAS」を構成する3つの柱

### ① 品質保証・顧客満足 「永谷園品質マネジメントシステム(ISO9001)」

ISO9001のシステムにより、社内の定期監査や外部機関の審査による効果的な運用の確認、管理体制の維持、継続的な改善を行っています。

### ② 食品安全 「食品安全管理システム」

HACCP<sup>\*2</sup>管理を重要視した国際規格であるFSSC22000<sup>\*3</sup>で規定されている事項を基本とし、食物アレルギー監査<sup>\*4</sup>などのノウハウを取り込み、衛生管理(食品安全のための前提条件プログラム)やフードディフェンス<sup>\*5</sup>の管理を独自の内容で各生産工場の状況に合わせて進化させて運用しています。

### ③ 危機管理 「商品回収システム・トレーサビリティシステム」

ISO9001や食品安全管理システムで、品質トラブルの発生を未然に防ぐよう管理していますが、万が一、永谷園が提供した商品に重大な問題が発生した場合のことを想定して、関連部門が早急に適切な対応が取れるように商品回収管理規程を整備・運用しており、定期的に模擬訓練を実施しています。また商品の生産・加工・流通の各段階において、原材料や包材の情報、商品の製造場所、販売先などの記録を残しており、商品の履歴情報を追跡できるようなシステムを構築しています。

主な取り組み

原料調達の特長な管理

永谷園は長年の「経験」や「技術」を基に「味ひとすじ」な商品開発に努めています。

例えば、60年以上親しまれている「お茶づけ海苔」にも使用している海苔は、1967年に全国の漁連の入札権を取得し、永谷園商品に合った品質の海苔を50年以上も自ら選んで直接買い付けています。食品メーカーでこの入札権を持っているのは極めて珍しいことです。

また、同じく「お茶づけ海苔」に使用している抹茶は国産の茶葉を使用し、お茶づけにした際に鮮やかな緑色で風味豊かな品質のものを科学的に確認する他、購買担当者と品質管理担当者による人間の感覚（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚など）を用いた「官能検査」で選定しています。

品質保証連絡会

永谷園では、商品の企画・生産・販売と、商品に携わる関連部門で構成する「品質保証連絡会」を開催し、商品の改善へと結びつける活動を行っています。日々寄せられるお客さまからの貴重なお申し出内容について、月単位で集計・分析・評価を行い、その内容に対する課題に取り組むだけでなく、食品安全に関する時事ニュースについても情報を共有し、企業としての対応方針を決定しています。この連絡会は定期的で開催しており、取り組み内容の進捗状況を随時確認しています。

正確かつ迅速な情報提供

永谷園ホールディングス品質保証部では商品情報室を設置し、社内外への商品情報の提供と管理を行っています。お客さまからのお問い合わせに迅速かつ正確に回答するためのサポートや、お取引先様への商品情報の迅速な提供、社外で原材料に問題が発生した場合の自社商品への影響確認など、商品情報がいつでも素早く使えるように常に最新の状態にし、日々維持管理することで顧客満足度向上の一端を担っています。

ナフサス監査

永谷園ホールディングス品質保証部による定期監査で、永谷園独自の食品安全ルールが守られているかを工場ごとに評価しています。監査での指摘については、改善スケジュールに従って改善し、その後の状態を品質保証部で評価することで、継続的なレベルアップを図っています。定期監査では現場確認だけでなく、2021年6月より本格施行されたHACCP制度化を含め、国内外の食品安全に関する動向を踏まえた新たな食品安全管理システムの提案、システム構築のサポートも実施しています。

また、サプライヤー管理強化の一環として、原材料や資材の供給先工場に対しても定期監査を行っており、国際的な食品安全規格の内容を基に評価を実施しています。

緊急時に備えた勉強会

健康被害が発生した場合には、事故内容や改善状況など、正確な情報を適切なタイミングでお客さまにお伝えすることが重要です。そのため、事故が発生した場合に工場で行うべきことや、お客さまが必要とする情報とはどういったものかなどを各工場の従業員に定期的に教育することで、有事の際には全社一丸で対応できるよう努めています。

※1 NAFSAS(ナフサス)

永谷園味ひとすじ食品安全保証システム(Nagatanien Ajihitosuji Food Safety Assurance System)の頭文字をとったもの。

※2 HACCP(ハセツプ、ハサツプ)

工場を運営する際に基本となる衛生管理(一般的衛生管理プログラム)を履行した上で、各商品において原料の入荷から商品の出荷まで、製造工程ごとに予測される危害の分析を行い、その分析に基づいて適切に管理する(危害分析)という衛生管理手法。

※3 FSSC22000

ISO22000と食品製造に関する一般的衛生管理の基準(ISO/TS22002-1)を組み合わせた食品安全システムの国際規格。

※4 食物アレルギー監査

食物アレルギー配慮商品を製造している永谷園フーズ岡山工場とオクトス工場において、食物アレルギー対策先進国であるカナダの権威のある機関より教育訓練を受けているシーアンドエス株式会社にご協力いただき、食物アレルギー配慮商品を製造するのに適した環境かどうかの監査を定期的実施し、高い評価を得ています。

※5 フードディフェンス

食品への意図的な異物や毒物などの混入、汚染を防止する安全管理手法です。工場への人の入退出管理や、工場内で使用する洗剤や薬品などの施錠管理・在庫管理を徹底しています。

TOPIC

品質保証カンファレンス

永谷園ホールディングス 品質保証部では、グループ全工場を対象に「品質保証カンファレンス」を開催して食品安全管理についての情報提供や、工場間の情報共有を補助する活動を行っています。

2021年度のカンファレンスはWeb会議で実施し、食品安全のトレンドや良い取り組みの紹介、意見交換を行いました。また、カンファレンスの様子は、録画して共有することで工場の社員教育にも活用しています。今後も定期的開催していくことで工場への迅速な情報提供や、工場間のより良いコミュニケーションの場としていきます。



# お客さまの声を よりよい商品づくりに反映します

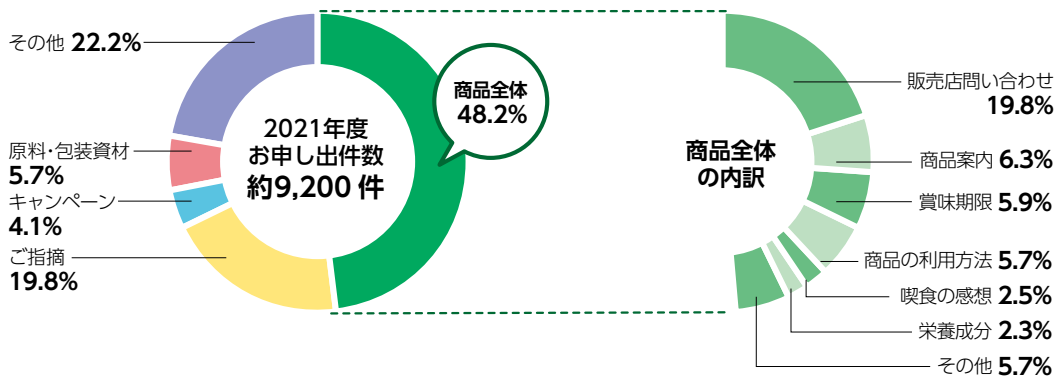
## 「お客様の声」を大切に

永谷園グループは、お客さまからの貴重なお申し出を、商品開発や改善に役立てたいと常に考えています。永谷園では、お客さまとのコミュニケーションの拠点として「お客様相談室」が窓口になり、いただいたお申し出に迅速かつ正確にお応える体制を整えています。2021年度は年間約9,200件のお問い合わせやご意見をいただきました。いただいたお申し出は社内のデータベースに蓄積し、日々「お客様の声」として社長も含め社内に情報を発信しています。

また、データを集計・分析して定期的に「品質保証連絡会」を開催し、開発部門や生産部門などでも、よりよい商品づくりに反映できるような仕組みにしています。

これからもお客さまに満足していただける商品を提供できるよう、一つ一つの「お客様の声」を大切にしていきます。

### お申し出内容 (2021年度)



- お客さまからご提供いただいた個人情報は、個人情報に関する法令等を遵守し、管理・保護しています。
- 「お客様の声」にはお客さまの個人情報は記載されません。

### お客さまの声からの改善事例

「生みそタイプ あさげ」シリーズの味噌と具材の小袋を分かりやすくしました。

改善前



改善後



味噌と具材の識別をしやすいように、  
味噌小袋の色を変更しました。

### お客さまの声を活かしたパッケージデザイン

永谷園では、お客さまにより使いやすく安全に商品を利用していただくために、法律に基づいた表示に加えて「お客様の声」を反映した永谷園独自の「商品パッケージルールBOOK」を制定して、パッケージの表示やデザインを作成しています。作り方の表示では、用意するものや調理順を分かりやすくイラストを用いてポイントが伝わるように表記するなど、お客さまが見やすく使いやすく伝えられるよう工夫しています。今後もお客さまに分かりやすいパッケージデザインになるよう常に改善を行ってまいります。

# 幅広いステークホルダーとの コミュニケーションを大切にしています

## お客さまとのコミュニケーション

永谷園グループは、お客さまとより良好な関係を築くために、テレビ、新聞などのマスメディアやインターネットを通じたコミュニケーションに加え、近年は従業員自らが直接お客さまに商品の魅力をお伝えするさまざまなイベントを実施しています。

### ■ 永谷園

#### ママ社員による「めざまし茶づけ」ファンミーティング

永谷園は、朝が苦手なお子さまにササッと食べられるお茶づけを提案する「めざまし茶づけ」について、社員と交流しながら学べるオンラインイベント「親子で参加♪おうちでめざまし茶づけファンミーティング」を2022年3月30日に実施しました。

前年よりスタートし、3回目の実施となった本イベントは、ママ社員を中心とした社内横断型プロジェクト「永谷園子育てママプロジェクト」のメンバーが、企画から当日の運営までを一貫して行いました。公式メールマガジン・Instagramよりご応募いただいた方の中から抽選で当選した11組のご家族にご参加いただきました。社員考案のアレンジレシピ試食やクイズを交え、忙しい朝の新提案、「めざまし茶づけ」をはじめのきっかけを楽しく学んでいただきました。

イベント終了後のアンケートでは、参加者全員から「今後もめざまし茶づけを続けてみたい」とご回答いただきました。他にも、「忙しいお母さんの立場にたつての、めざまし茶づけは本当に有難い存在です」、「ママ社員の皆さんとミーティングをしたことで、永谷園さんの、親子を大切にしている姿を感じることができました!」など、大変ご好評いただきました。今後も不定期で実施していく予定です。



#### 「お茶づけ海苔 ハッピーサンプリング」

永谷園では、2021年7月からたくさんの親子の皆様へ「めざまし茶づけ」の良さを知っていただくことを目的に、子どもたちの課外活動の場で社員自らがサンプリングを行っています。子どもたちの習いごとやスポーツ活動などの場で、お茶づけ海苔とリーフレットを配布し、おうちで「めざまし茶づけ」を体験していただいています。



### ウェブコミュニケーション

永谷園グループでは、ウェブを活用したお客さまとのコミュニケーションを積極的に行っています。永谷園は、2022年5月に創業の商品である「お茶づけ海苔」(1952年発売)が発売70周年を迎えたことを機に、ホームページデザインを一新し、新コンテンツも加えてフルリニューアルしました。また、ウェブ会員の「永谷園フレンズ」向けには、新商品やキャンペーンなどの情報や、忙しい日々の中でも食事づくりをより楽しく豊かにしていくための情報を月2回メールマガジンで発信しています。また、TwitterやInstagramなどSNSを活用したお客さまとのコミュニケーションにも力を入れています。お客さまと「おいしく たのしく 役に立つ」コミュニケーションが図れるよう、これからもさまざまな情報を発信してまいります。



永谷園ホームページ(PCサイト)



スマートフォンサイト

### 株主様との関係

永谷園グループは、グループの企業倫理に関する基本方針である「企業行動指針」において、「ステークホルダーの立場を尊重し、長期的な信頼関係を築き、企業の発展につなげていく」と規定しており、なかでも株主様に対しては、さらなる信頼関係を築くために、事業活動にかかわる情報を適切かつタイムリーにご提供することを心がけています。また、永谷園グループおよび永谷園グループ商品に対する息の長いファンであっていただきたいという願いのもと、2002年度から株主優待制度を導入しています。



永谷園 株主優待商品の詰め合わせ  
(内容は毎年異なります)



# 従業員がいきいきと働ける職場環境づくりに取り組んでいます

## 働き方改革の推進

### 在宅勤務制度の導入

永谷園では、働き方改革の一環として、2019年4月より在宅勤務制度を導入しています。

通勤や外出などの移動による時間のロスを減らし、集中できる業務時間を確保することで労働生産性の向上を目的としています。また、サテライトオフィスの利用や、デジタルツールの活用促進など、出社とリモートワークを柔軟に組み合わせた効率的な働き方ができる環境づくりを推進しています。

### サポート休暇制度

永谷園では2009年より、誕生日を家族でお祝いしたり、平日に行われる入学式や卒業式、または授業参観などへ出席できるよう、年2日を限度として休暇を取得できる家族団らん休暇制度を導入しています。2019年7月からは、サポート休暇と名称を変え、ボランティア活動や自己啓発のためにも使用できるようにし、取得日数も年間2日から4日に増やしました。今後も従業員が仕事と生活を両立させながら、いきいきと働き続けられる職場の実現に取り組んでいきます。

## ダイバーシティの推進

永谷園グループでは、多様な従業員がいきいきと働き活躍できるようにさまざまな取り組みを行っています。

### 女性活躍の推進

永谷園では、女性が個々に持つ多様な価値観・能力を発揮し、より活躍できることを目指し、女性活躍推進法に基づき一般事業主行動計画(第2期)を策定しました。



#### ①計画期間

2020年3月5日～2025年3月31日

#### ②当社の課題

管理職および指導者層における女性の割合が低い。  
男女の勤続年数に差はないが、管理職比率は、過去5年間で4ポイントの向上(6% → 10%)にとどまっている。

#### ③目標

- (1) 管理職層にしめる女性比率を上げる。  
数値目標 10% → 15%
- (2) 多様な社員が、多様なキャリアを形成しながら活躍できる職場環境整備を推進する。

#### ④目標達成のための取り組み内容

- (1) 女性のキャリア形成支援のための施策(2020年3月～)
  - ①指導育成面接の実施
    - 個々のキャリア形成・成長/育成イメージをもてる面接を実施し支援する。
  - ②既存の活躍推進諸制度の活用促進と制度改正
    - 既存制度の活用促進のため、活用しやすいルールを作る。
    - 様々なキャリアプランにあった働き方の選択肢を増やす。
  - ③新人事制度移行後の研修の実施
    - 個々のキャリアに向き合い、それぞれの活躍の仕方を考える。
    - 考え方や視野を広げ、キャリアデザインをする。
- (2) 管理職層への研修実施(2020年3月～)
  - 部下を適切に動機付けし、能力を引き出すための、マネジメントスキル育成研修の実施。

女性が活躍できる環境・風土づくりに積極的に取り組み、2021年11月に麦の穂、2022年10月に永谷園が「えるぼし認定(3つ星)」を取得しました。「えるぼし認定」は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」に基づき、女性の活躍に関する取り組みの実施状況が優良な企業に与えられるものです。

## 障がい者雇用の取り組み

永谷園グループでは、障がいのある方が働きがいを感しながら力を発揮できる環境づくりを進めており、さまざまな職場で活躍しています。永谷園では、千葉県千葉市花見川区にある「永谷園ふぁーむ」で農園スタッフとして働いています。収穫した野菜などが定期的に本社等に送られ、従業員が料理に活かすなどして、収穫の喜びを共有しています。



# さまざまな活動を通じて 社会の課題解決に貢献します

## 地域社会と次世代の発展のために

### フードバンク活動への支援

永谷園グループでは、社会課題である食品ロスの削減と、必要としている人たちに食品を届けやすくする社会のために、賞味期限が近いなどの理由で市場に流通できない商品を食べ物に困っている方や施設に無償提供する「フードバンク」に提供しています。

新型コロナウイルスの影響による困窮世帯の増加でフードバンクへの需要が高まっています。これからも「食の支援」と「食品ロスの削減」に貢献してまいります。

### 子どもへの支援

「子どもの貧困」は、現代の日本における深刻な社会課題の一つです。日本の子どもの7人に1人が「相対的貧困」の状態にあるといわれています。永谷園ホールディングスでは、子どもの貧困への取り組みとして、東京都文京区が非営利団体と協働で取り組んでいる「こども宅食」に定期的に商品の提供を行っています。

2021年8月には、子どもの貧困対策や学習支援に取り組む「NPO法人キッズドア」と、母子世帯を対象に、食の栄養素や朝ごはんを食べることの大切さなどについて学べる「めざまし茶づけ」×「教えて！今先生」オンラインお料理教室を実施しました。

永谷園のホームページで、「めざまし茶づけ」の魅力や朝ごはんにおける「3つのスイッチ」について語っていただいている栄養教諭の今里衣(こん さとえ)先生を講師としてお招きし、栄養素についての講義や「栄養満点・時短・節約」をコンセプトにしたアレンジレシピを実演で紹介しました。



今里衣先生



実演したアレンジレシピ

### ひとり親家庭への支援

永谷園ホールディングスは、2022年5月から「認定NPO法人 おてらおやつクラブ」への商品提供を開始しました。同法人は、お寺に寄贈される食品や日用品などを、全国の協力寺院・支援団体の協力のもと、経済的に困窮状況にあるご家庭へ提供し、貧困問題の解決に寄与する目的で活動を行っています。



### 知的障がい者スポーツへの支援

永谷園ホールディングスは、2020年より「一般社団法人 全日本知的障がい者スポーツ協会」のオフィシャルスポンサーとして、商品協賛活動を通じて障がい者スポーツを支援しています。同協会は、知的障がい者スポーツ団体の統括組織として活動しており、これまでなかなか機会が無かった重度・重複障がいのある知的障がい児・者やダウン症の方々にも、日常生活の中で運動・スポーツを行える環境整備やそのための理解・啓発のための事業を展開し、知的障がい児・者のスポーツ参加を応援している協会です。

2021年11月に実施された「知的障がい者サッカー日本代表候補強化合宿」に、選手やスタッフの食事サポートとして、フリーズドライご飯とレトルトカレーを提供しました。同年11月から翌年1月に開催された愛知FIDバスケットボール連盟主催のチャレンジ大会にカップ茶づけを提供しました。こちらは選手への参加賞として活用されました。



愛知FIDバスケットボール連盟主催チャレンジ大会

### ペットボトルキャップの回収

永谷園では、ペットボトルキャップの回収活動を行っています。回収したキャップは有価で売却し、NPO団体を通じて発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動につながっています。2021年度は36,000個、72kgのキャップが集まり、約36人分のポリオワクチンを届けることができました。また、リサイクルを通して226.8kgのCO<sub>2</sub>の削減につながりました。



ペットボトルキャップの回収ボックス

### 出前授業

永谷園グループは次世代を担う子どもたちに、食と健康、ものづくりの楽しさを知ってもらうために、小学生・中学生向けに出前授業を実施しています。

### 永谷園ホールディングス

2021年11月に大田区立出雲小学校(東京都)5年生のクラスで「防災食」をテーマに授業を実施しました。「防災備蓄食フリーズドライご飯」の説明の他、児童たちに防災食を考えてみようという課題に取り組んでもらいました。授業を通して児童たちに、災害食にはさまざまな役割や工夫があることを学んでもらうのと同時に、ニーズに合った災害食を考えることで防災に対する意識や災害時の食の在り方について考える機会を提供しました。



出雲小学校

大阪府摂津市教育

委員会の依頼を受け2021年7月から12月にかけて「職種体験プログラム」に参加しました。職種体験プログラムとは、摂津市が中学校2年生を対象に、働くことの意義や重要性を学び、将来の進路について深く考えるきっかけとすることをねらいとし、企業に協力を求めて生徒に体験してもらう活動のことです。授業では、「中学生が食べたくなるお茶づけ商品を開発する」という課題でグループワークに取り組んでもらいました。どのグループも自由な発想や豊かなアイデアによる非常に完成度の高い商品が提案されました。今後も次世代の子どもたちに向けて、将来の夢や職業について考えるきっかけづくりを担うキャリア教育に協力してまいります。



摂津市職種体験

### 永谷園

大阪支店は、子どもたちに朝食やお米の重要性を説くために、地域の小学生を対象に出前授業を実施しています。元気で健康な生活を送るうえで朝ごはんが大切であることや、「めざまし茶づけ」に関する説明とお茶づけクイズを出題するなど、手作りで温かみのある楽しい授業を実施しています。

### インターンシップ

麦の穂は「日本で一番人が育つ会社」を目指し、キャリア教育をベースとしたさまざまな人材育成に取り組んでいます。その一環として、2021年に椋山女学園大学と協働で「本当に

やりたいこと。自分のキャリアは何なのか」をコンセプトにしたインターンシッププログラム「MUGINOHO CAREER PATH」を構築しました。本プログラムはキャリア教育をベースとした商品企画や店舗運営などの職業体験を通じて、キャリアデザインスキルの習得を目指す構成となっており、丁寧なフィードバックと事後学習を行うことで教育効果の高いインターンシップとして参加学生から高い評価を得ました。

本プログラムは、学生の社会的・職業的自立に貢献したインターンシップを表彰する日本最大級のアワード「学生が選ぶインターンシップアワード2022」において645プログラムの中からエントリーされた、学生アンケートや学生選考会、選考委員会などの審査を経て上位10件の中に選ばれ入賞しました。



### 工場見学

永谷園フーズオクトス工場は、2021年7月に三重県松阪市内にある伊勢寺小学校3年生48名の工場見学を実施しました。受け入れにあたっては、マスク着用、アルコール消毒など新型コロナウイルス感染対策を徹底しました。子どもたちからは「一生懸命働いてふりかけができることがわかった」、先生からは「コロナ禍で工場見学の受け入れをしている企業がなく困っていた。子どもたちは今日の見学を楽しみにしていた」などの言葉をいただきました。

また、永谷園フーズサンフレックス工場でも、同年7月に高校生対象の工場見学を実施し、6つの高校から12名の参加がありました。会社案内とフリーズドライ、レトルト食品の基礎知識や生産ラインについて説明し、その後工場の見学を行いました。今後も地域に根ざした貢献活動を行ってまいります。



### 周辺地域の美化活動

永谷園グループの各事業所では、エコチームが中心となって、定期的に周辺地域の清掃活動・美化活動に取り組んでいます。近隣の工場の方や地域の方と一緒に活動を行うこともあり、従業員だけでなく周辺地域との交流の場にもなっています。永谷園フーズ岡山工場では、2021年7月に従業員60名以上が参加して清掃を実施しました。今後も定期的な清掃活動を実施することで、周辺地域の美化の維持に努めていきます。

# 「環境基本方針」のもと、 環境保全活動に取り組みます

## 環境基本方針

### 永谷園グループ 環境基本方針

#### 環境理念

永谷園グループは、「味ひとすじ」の企業理念のもと、お客さまに満足していただける商品・サービスを提供するとともに、社会の一員として地球環境保全の大切さを理解し、環境に配慮した企業活動に取り組み、幸せで豊かな社会づくりに貢献します。

#### 行動指針

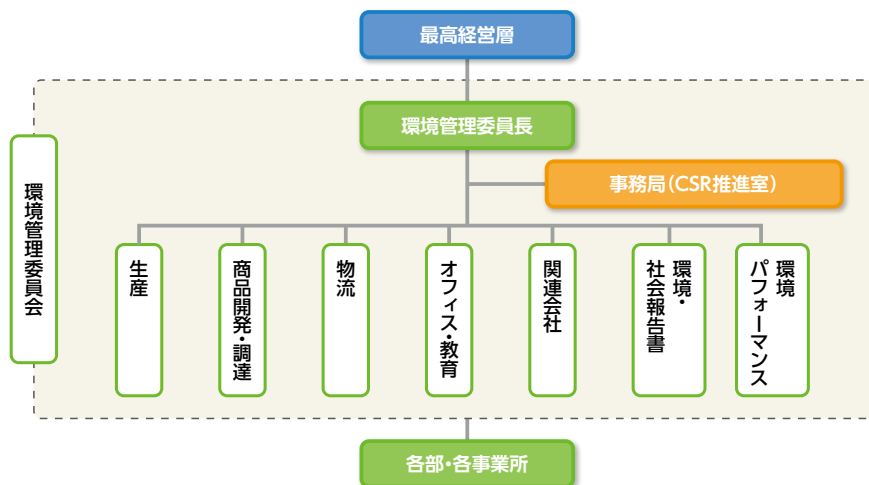
- ① 永谷園グループは環境に関する法令などの遵守はもとより、環境保全を推進していくための体制を構築し、地球環境への負荷軽減に継続的に取り組みます。
- ② 環境保全に配慮した開発・生産に取り組み、「環境に負荷の少ない商品・サービス」を社会に提供します。
- ③ 廃棄物の削減、リサイクルの推進および省資源・省エネルギーに努め、目標を掲げ「環境問題へ真剣に取り組む事業所」を目指します。
- ④ 社員一人ひとりが前向きに環境問題を考え、「環境問題へ真剣に取り組む社員」としての誇りを持ちます。

● 行動指針は「企業行動指針」のひとつに制定され、永谷園グループの企業倫理に関する基本方針として社内に周知されています。

## 環境保全活動推進体制

永谷園グループでは、環境保全活動を推進する体制として、環境管理委員会を設置しています。環境管理委員会は、環境管理委員長をはじめ、生産拠点、事務系部門、事務局のメンバーで構成され、環境経営の維持・向上を効果的に進めています。また、環境法の遵守についても、関連する部門のメンバーを中心に的確に対応しています。

### 環境保全活動推進体制



# 継続的な改善により、 環境保全活動を推進します

## 環境マネジメントシステムの維持・向上

永谷園フーズの生産拠点では、環境保全活動を継続的に実施していくために、ISO14001に準拠した「永谷園グループ環境マネジメントシステム(EMS)」を運用し、PDCAを回して維持・向上に取り組んでいます。

この独自システムは、「永谷園グループ環境マネジメントマニュアル」を基本とし、環境担当である各拠点のエコスタッフを中心に目標やルールを作成して省エネルギー、廃棄物の削減などの環境保全活動を推進するとともに、緊急事態の特定、対応方法の検討および訓練を実施して環境リスクの低減を図っています。その結果、2021年度における環境に関する事故は1件もありませんでした。

## 内部環境監査

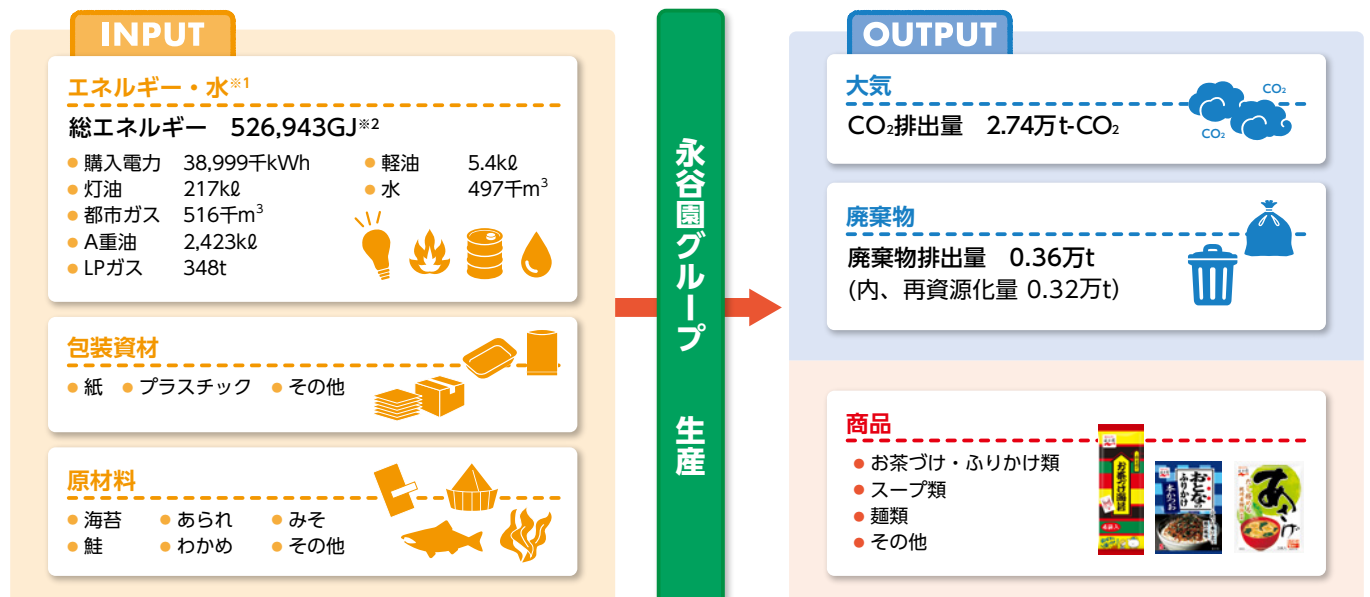
永谷園グループでは、環境マネジメントシステムの継続的改善のために、内部環境監査を毎年実施しています。

内部環境監査は、社内外で研修を受け資格を有する監査員が、環境マネジメントマニュアルの要求事項に基づいたチェックリストを使用して、適合性と有効性を確認するとともに、環境関連の遵守状況や、環境目標の達成度合いを確認しています。



内部環境監査風景

## 環境負荷の分析 (マテリアルフロー)



(2021年度実績)

### ※1 換算係数

- 電力:「電気事業者別のCO<sub>2</sub>排出係数(2020年度実績)」の実排出係数に準拠
- 都市ガス:各都市で発表している熱換算係数に準拠
- その他の燃料等:「エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則」および「地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく命令」による係数に準拠

### ※2 GJ(ギガジュール)

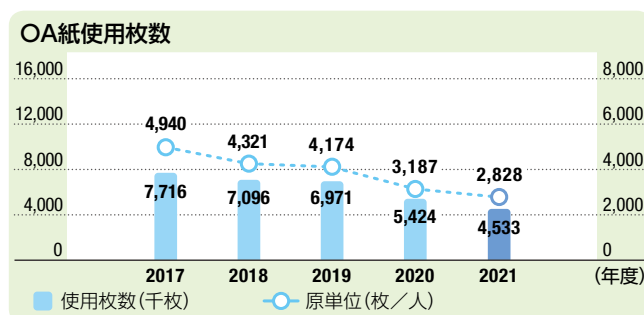
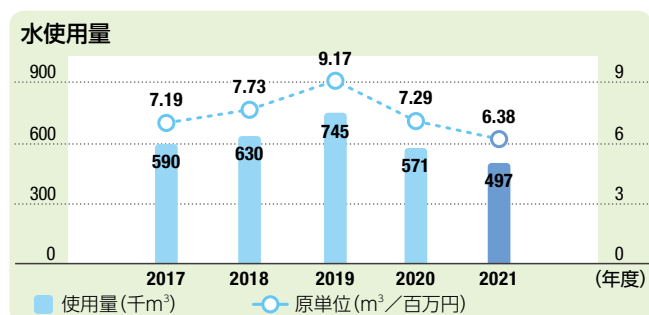
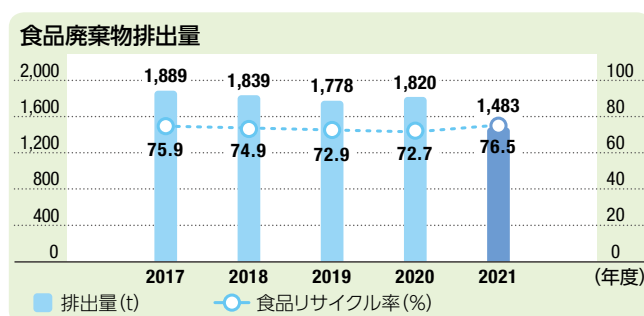
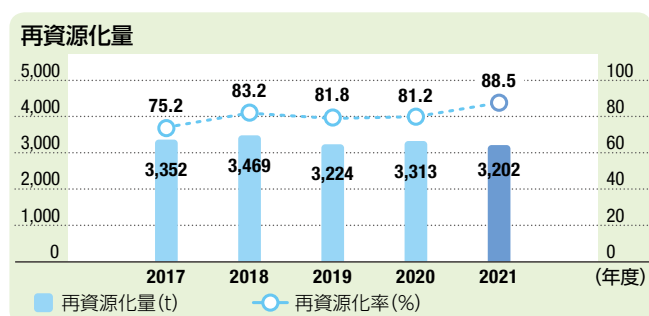
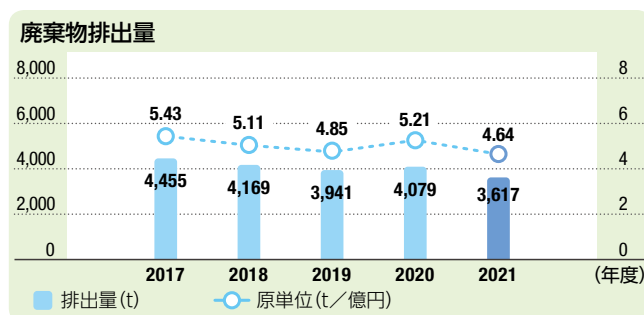
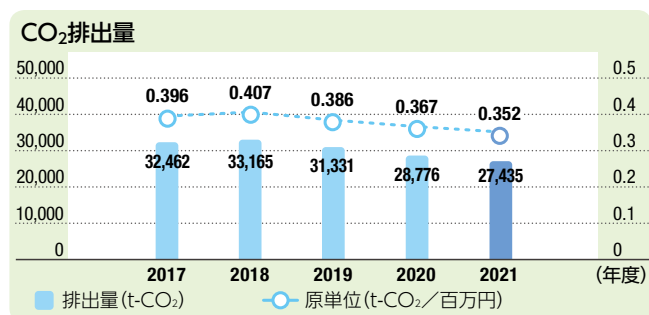
ジュールは発熱量の単位 1GJ=10<sup>9</sup>J

# 環境負荷低減のために 継続的に活動します

## 2021年度結果

| 実施項目       | 具体的取り組み               | 2021年度実績 (2020年度対比) |
|------------|-----------------------|---------------------|
| 気候変動への取り組み | CO <sub>2</sub> 排出量削減 | 4.1%の削減             |
| 廃棄物削減      | 排出量削減                 | 10.9%の削減            |
|            | 再資源化率向上               | 7.3ポイント上昇 (88.5%)   |
|            | 食品リサイクル率向上            | 3.8ポイント上昇 (76.5%)   |
| 省資源        | 水使用量削減                | 12.5%の削減            |
|            | OA紙使用枚数削減             | 11.3%の削減            |

- 2021年度実績より、従来集計体制を構築中だったグループ会社の拠点を集計に含めたため、過去データを再計算しました。
- CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物排出量、水使用量、OA紙使用枚数の実績は、2021年度を基準年とした売上高 (OA紙使用枚数は従業員1人) あたりの原単位の削減比率になっています。
- 食品廃棄物については、改正食品リサイクル法の対象となる再資源化等の実施率になっています。
- OA紙使用枚数については、藤原製麺と麦の穂の実績は含まれていません。



# CO<sub>2</sub>排出削減に 積極的に取り組みます

## 気候変動への取り組み

気候変動の進行は、異常気象や生物多様性破壊を引き起こし、人々の暮らしはもちろん企業活動にも大きな影響を及ぼします。2015年には気候変動抑制の国際条約「パリ協定」が採択され、日本においては2020年10月、当時の内閣総理大臣が所信表明演説において、2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言されました。永谷園グループも気候変動の原因となるCO<sub>2</sub>排出量削減につながる省エネや創エネ活動に積極的に取り組んでいます。

### 再生可能エネルギーの導入

永谷園グループでは、脱炭素社会の実現に貢献するため、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの利用促進に取り組んでいます。永谷園フーズサンフレックス第一、第二工場では、屋上に太陽光パネルを設置しています。発電した電力を優先して使い、ディーゼル発電機も効果的に使うことで、安定した電力保持を維持しながら電気使用量を削減しています。2021年度は太陽光発電で223,337kWh発電し、CO<sub>2</sub>排出量を106トン削減しました。

また、永谷園フーズ茨城工場では2022年1月よりトラッキング付・FIT 非化石証書等が付与された実質再生可能エネルギーの電力に切り替えました。これにより年間約1,220トンのCO<sub>2</sub>排出量削減が見込まれます。



太陽光パネル



### 省エネルギーの取り組み

#### 〈間欠運転による電力の削減〉

永谷園フーズ岡山御津工場では、排水処理施設のブロワー※1の間欠運転を2022年7月より開始しました。工場周辺への臭気等の影響を考慮して夜間のみ実施しています。この取り組みにより年間で25,000kWhの電力削減、CO<sub>2</sub>排出量約12トンの削減が見込まれます。

#### 〈LED照明への切り替え〉

永谷園グループの工場では、「長寿命」「省電力」「水銀を含まない」などの理由から、環境にやさしい照明であるLEDへの切り替えを進めています。

永谷園フーズオクトス工場では、2021年度に333灯をLED照明に切り替え、年間約59,000kWhの電力を削減し、CO<sub>2</sub>排出量を24トン削減しました。

#### 〈A重油使用量の削減〉

永谷園フーズサンフレックス第一工場では、ボイラー※2の稼働台数を制御することでA重油の使用量を年間で原油換算値26kℓ、CO<sub>2</sub>排出量を約70トン削減しました。

#### 〈海外拠点の取り組み〉

Chaucerでは、ISO50001を取得し、組織のエネルギーパフォーマンスを可視化して改善活動につながる取り組みを行っています。

製造現場における設備の起動・停止の管理による節電、ブレッド事業のパン焼き機への環境に配慮した燃料の採用など、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

### プラスチックへの取り組み

麦の穂の Beard Papa 店舗では、レジ袋をバイオマス素材25%配合の袋に変更しました。また一部店舗において、プラスチック製ストローを紙製に切り替えました。



※1 ブロワー  
浄化槽に酸素の供給を行うことで水中の微生物を活性化し、有機物の分解を促進させる装置

※2 ボイラー  
水などの液体を加熱することで蒸気や温水をつくる機械

# 食品ロス削減に 強い意志で取り組みます

## 食品ロスの削減の取り組み

永谷園グループは、環境負荷低減のために限りある資源の効率的な利用と廃棄物のリサイクルに努めています。特に、まだ食べられるにもかかわらず廃棄される「食品ロス」に対しては、持続可能な開発目標(SDGs)で、1人当たりの食料廃棄を2030年までに2000年度から半減させる目標が掲げられています。国内では、食品メーカーとして強い責任感を持って取り組んでいきます。

### 賞味期間の延長と賞味期限「年月」表示化

永谷園では、食品の期限設定に関する法律やガイドラインなどを基に、商品開発部門と品質管理部門が官能検査(味、におい、色、食感)、微生物検査、理化学検査(水分、pH、水分活性など)を行い、賞味期間を設定しています。

2017年より、食品ロス削減を推進するために、賞味期間を延長しても安全性や品質を保証できることを確認した商品は、3か月～12か月の賞味期間延長を行っています。

また、2021年5月からは、賞味期間9か月以上の市販用商品、業務用商品で賞味期限の表示方法を「年月日」から「年月」に変更する取り組みを順次進めています。この取り組みにより、サプライチェーン全体での食品ロス削減、物流の効率化などの社会問題の解決への貢献を目指します。

### フードバンクへの提供

賞味期限が近くなり、市場に流通できない商品を食べ物に困っている方や施設に無償提供する「フードバンク」に提供することで食品ロスの削減を推進しています。

### 食品廃棄物の削減

永谷園フーズオクトス工場では、2021年8月に消滅型生ごみ処理機を導入しました。

従来の処理機では、処理後に残渣が残るため食品廃棄物

が発生していましたが、新しい処理機は微生物の力で生ごみを分解するため、排水のみで廃棄物は発生しません。これにより年間約7トンの食品廃棄物を削減できました。



### 商品包装の見直し

永谷園では、定期的に包装資材の仕様を見直すことで環境負荷の低減に取り組んでいます。2021年9月より「広東風かに玉」のあんかけの素小袋の軽薄化を図りました。この取り組みにより、年間5トンの廃棄物が削減できました。



### 海外拠点の取り組み

Chaucerでは、最適なサプライヤーの採用による原材料の廃却リスクの低減、フリーズドライ製品の製造過程において発生する果物・野菜の形状不適合品を粉末にした商品の販売等により、サプライチェーン全体での食品ロスの削減に取り組んでいます。

## 編集後記

永谷園ホールディングス  
CSR推進室長  
小川 美朋

近年、世界経済はこれまで経験していなかった事象により変化しています。この変化は人々のワークライフバランスを大きく変えるだけでなく、当社の事業活動はじめ、世界の経済活動にも大きく影響しています。加えて地球の気候変動による災害の激甚化など、環境負荷軽減への対応は待ったなしです。

この気候変動などの地球環境問題への対応に加え、従業員の健康・労働環境への配慮、自然災害などへの危機管理など、取り組まなければならない課題は増えていく一方です。未来の地球と向き合うことが求められていると改めて実感します。

当社ではこのようなサステナビリティに対するさまざまな課題に対して、常に「当社は何をすべきか」を考え、積極的に取り組むよう対応・提案・開示をし続けてまいります。また、サステナビリティを巡る課題への対応は環境リスクの減少のみならず事業活動の持続や新たな収益機会にもつながる重要な経営課題であると認識し、今後も対応・開示してまいります。

本「環境・社会報告書」はまだまだ社会やお客さまの要望に十分に即している内容ではないと感じています。今後、より充実した取り組み内容・開示内容を皆様にご提示できるように制作してまいります。



**お問い合わせ先**

**株式会社永谷園ホールディングス CSR推進室**

〒105-8448 東京都港区西新橋2丁目36番1号

TEL:03-6695-0188 FAX:03-3432-2528